

会議音声要約技術

～音声書き起こしによる議事録作成支援～

01 技術開発の背景・目的

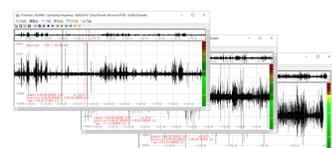
- 昨今の音声認識技術の飛躍的な性能向上により音声要約の実現性が高まっている。
- 本研究では、会議の議事録作成支援の実現を目指して、複数話者による自然発話のテキスト化と要約について検討した。

02 特長・用途

- 最新のディープラーニング手法に基づく独自の音声認識手法。
 - ・ 曖昧な自然発話の高精度な書き起こしが可能。
 - ・ 独自の発話検出・話者識別手法を開発（特許出願中）。
 - ・ 分野に固有の語彙拡充が可能。
- 大規模言語モデル（LLM）による生成型要約手法。
 - ・ ローカルLLMによるクローズドな環境で、セキュアな運用が可能。

（処理概要）

話者別多チャンネル録音



発話検出・話者識別
(Speaker Diarization)

音声認識
(End-to-End ASR)

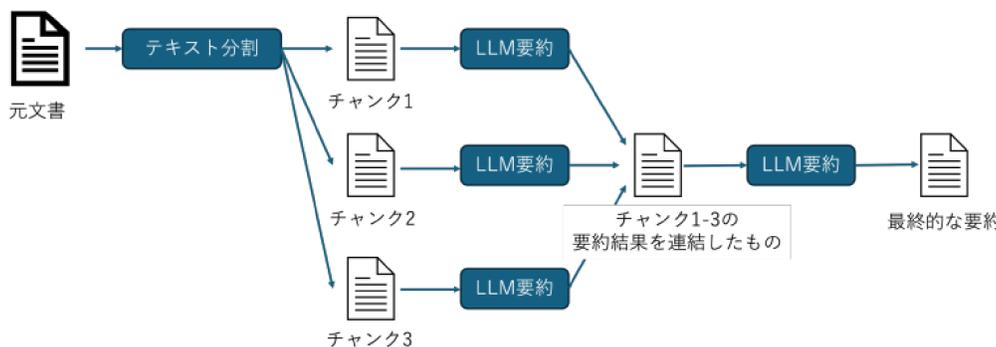
大規模言語モデル
(LLM)

要約テキスト



（チャンク型要約）

長時間の会議音声进行处理するため、音声認識テキストを中間的な処理単位（チャンク）に分割し、多段階の要約処理を行っています。



03 社会実装に向けた取り組み

- グループ会社における議事録作成の試行などを通じて、要素技術の開発と評価を進めています。
- プロトタイプを実装。ニーズに合わせた試行版を提供可能。

04 研究者より

- 大規模言語モデルの出現により、自然言語処理の枠組みは変革期を迎えています。
- 昨今のLLMの発展は目覚ましいものがあり、今後も技術的なキャッチアップと応用技術の開発を進めていきたいと思ひます。

先端技術応用研究所



情報技術グループ 瀬川研究副主査